

報 告 書 抄 録

ふりがな	やたじゃいけどころぼ うまごえみやのしたいせき さがたしものしたいせき							
書名	矢田蛇池土壙墓 馬越宮之下遺跡 佐方霜の下遺跡							
副書名	平成16年度 市道別名矢田線建設工事に伴う発掘調査報告書 平成21年度 寺院境内接続私道建設工事に伴う発掘調査報告書 平成21年度 民間携帯電話中継塔建設工事に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	今治市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第134集							
編著者名	藤村啓修							
編集機関	今治市教育委員会							
所在地	〒794-8511 愛媛県今治市別宮町一丁目4-1 TEL(0898)-32-5200(代)							
発行年月日	西暦 2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やたじゃいけどころぼ 矢田蛇池土壙墓	いまばりしやた 今治市矢田乙42番1・2、43番	38202		34°02'38"	132°58'20"	20050105 } 20050302	1,500 m ²	市道建設工事
うまごえみやのしたいせき 馬越宮之下遺跡	いまばりしうまごえちよう 今治市馬越町2丁目甲227番2	38202		34°03'29"	132°58'57"	20090415 } 20090417	9.75 m ²	境内接続私道建設 (基礎部)
さがたしものしたいせき 佐方霜の下遺跡	いまばりしきまちようさがた 今治市菊間町佐方1025番	38202		34°03'10"	132°52'46"	20100305 } 20100315	9 m ²	携帯電話中継塔建設 (基礎部)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
矢田蛇池土壙墓	古墳	古墳	主体部、周溝、区画溝、土坑、		須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器			
馬越宮之下遺跡	集落跡	中世	地鎮土坑、ピット		瓦質土器、陶器			
佐方霜の下遺跡	墳墓	中世	墓坑、人工盛土		青磁、陶磁器、染付、土師質土器、瓦質土器、鉄製品			
要約	<p>矢田蛇池土壙墓は、埋葬主体部は後世の削平で僅かにその痕跡が残るのみであった。墳丘の南東裾と北側に周溝があり、南東の周溝からは破砕された須恵器壺、坏が出土した。また墳丘北の周溝の更に北側に墓域を区画すると考えられる尾根に直交する溝を確認している。古墳の時期は周溝出土土器から6世紀前後と想定される。</p> <p>馬越宮之下遺跡は、事前の試掘調査で2筆の調査地の内東隣では中世集落跡と認定され、入口側では遺構は確認出来なかったが遺跡の広がり範囲であろうと考えられた。結果的に東隣に設定された調査区は狭小で寺院の敷地拡張の石垣が構築される裾部にあたり、地鎮が推測される土坑1基とピット7口の検出であった。時期は土坑から出土した土釜から近世前期が考えられるものであった。</p> <p>佐方霜の下遺跡は、3×3mの調査区より地山に掘り込まれた土坑墓と考える遺構を1基検出した。火葬した人骨の主要部は、取上げた残部と礫石・土器等を片付的に埋葬した土坑「再葬墓」と考える。出土の礫石は被熱で変色したものも混り、火葬時の棺台石であろうと考えられた。礫石の間から大腿骨と思われる骨が2個体出土したが、これ以外に骨の出土は無かった。供伴土器の中にも被熱痕が見られるものが混じっている。調査区壁には土饅頭形の土盛り状況が明瞭に残るが、墓坑は地山斜面に楕円状の不整形な掘り込みで、掘形断面も凸凹で片付的なものであると判断される。時期は供伴土器から中世前期頃と想定される。</p>							